

問 1. 骨粗鬆症・関節リウマチとその治療薬に関連した次の記述には誤り（一ヶ所とは限りません）があるか
もしれません。その場合は誤りを指摘して正しく書き直しなさい。誤りのない場合は「正」と書きなさい。
ただし、下線部は変更できません（配点 20 点）。

- 1) エストロゲン類は骨芽細胞に存在するエストロゲン受容体に作用して骨吸収を抑制する。
- 2) 塩酸ラロキシフェンは骨に対してはエストロゲン様作用を示すが、子宮や乳腺ではむしろアンタゴニストとして働く。
- 3) エルカトニンには中枢性の鎮痛作用がある。
- 4) ビスホスホネートはコラーゲンなどの骨基質タンパク質に強い親和性を持ち、骨表面に取り込まれ、それを破骨細胞が取り込む。
- 4) 骨粗鬆症は、小児の場合はくる病と呼ばれる。
- 5) メナテトレノンは、活性型ビタミン D3 存在下に骨基質タンパクであるコラーゲンの生成を促進する。
- 6) イプリフラボンは動物性エストロゲン様物質のひとつである。
- 7) 慢性関節リウマチは、加齢による関節の退行性変化に力学的な関節の磨耗が加わって出現する。
- 8) 疾患修飾性抗リウマチ薬（DMARD）は慢性関節リウマチの治療に用いられ、速効性で鎮痛効果が高い。
- 9) 慢性関節リウマチの治療において、メトトレキサートは連日投与する。
- 10) TNF α は、関節の滑膜増殖を引き起こし、軟骨の破壊にも関与している。

以上

平成 20 年度薬理・毒性学Ⅳ 期末試験問題 (小野 担当分)

問 1 糖尿病を分類して、それぞれについて説明しなさい。

問 2 糖尿病の 3 大合併症を、それぞれについて説明しなさい。

問 3 経口糖尿病治療薬である SU 剤 (スルホニル尿素類) の作用機序を図を併用して説明しなさい。